

医療保健への草の根レベルの支援

在ザンビア日本国大使館

1 NGO活動

(1) T I C O (Tokushima International Cooperation) は1997年からザンビアでの活動を開始し、救急隊設立や農村部へのプライマリヘルスケアなどを行ってきました。2017年9月からは「心臓血管外科技術移転プロジェクト」を開始し、医師や臨床工学士等を派遣しザンビア人医師等の育成を行っています。同年、人工心肺を使用しない小児の動脈管開存手術3例を成功させてからは毎年2～3回のペースで技術移転を行い、2020年に増帽弁置換術＋三尖弁輪形成術を成功に導きメディアで紹介されました。ただそれ以降は新型コロナウイルスの影響で活動の中断を余儀なくされていましたが、2022年5月に第8回目プロジェクトを再開させ、カウ ندا空港近くに新設されたN H H (National Heart Hospital, U T Hの心臓血管外科が移転) でザンビア人と日本人の合同医師チームが4例の手術を行うなど、これまで合計20症例の手術を実施・成功させており、ザンビア側への技術移転も含めて、ザンビアへの医療技術向上に大きく貢献しています。

(2) J A T A (Japan Anti-Tuberculosis Association) は2008年からザンビアでの活動を開始し、結核患者の多いルサカ州でも特に低所得者層の多く住む地域や管轄クリニックを対象に、X線などの医療機器の供与、保健医療従事者の能力強化研修の実施、コミュニティボランティアによる普及・啓発支援を行っており、これまで20名の日本人職員が現地スタッフと共に活動しています。

(3) J O I C F P (Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning) は2014年からザンビアで活動を開始し、コッパーベルト州を中心に保健ボランティアや若者などの人材育成を通して地域での啓発教育活動を強化し、農村地域の保健施設内に母子保健棟、マタニティハウス、ユースセンター等を建設しました。また、リプロダクティブヘルスに関するサービスと情報が一カ所で提供できるワンストップサービスサイトを整備し、保健サービスへのアクセス向上を目指しており、これまで20名の日本人職員が活動しました。

(4) ロシナンテスは2019年からザンビアで活動を開始し、中央州において妊婦が安全に出産できるマザーシェルターを建設、さらに同施設で妊婦健診に

使用する小型エコーを設置し、医療職員のエコー診断研修を行いました。本エコー導入後には、夫が胎児の状態を確認するために妊婦健診に同行する等、出産や育児に関するマインドセットに変化をもたらし、これまで10名の日本人職員が活動を行っています。

2 個人活動

(1) 2010年にザンビアの医師免許を取得した山元佳代子医師は、2011年よりチボンボ郡ルアノ地区等でマラリアや上気道炎、結膜炎等の患者に対して巡回診療活動を行ってきました。当初はNPOの支援で活動を行っていましたが、2011年12月からは山元医師の自己資金のみで対応することになり、薬品や資機材の購入、活動協力者や運転手への手当、車両の維持費等を負担しました。2012年7月には「ザンビアの辺地医療を支援する会」を設立し、ザンビアでの医療活動の資金を得るために、1年のうち半年を日本の病院で医師として勤務し、残りの半年はザンビアで医療活動を行っています。なお、2013年に第43回医療功労賞、2018年には第14回ヘルシーソサイエティ賞を受賞するなど、各方面からその活動が評価されています。

(2) 2016年にザンビアの医師免許を取得した三好康弘医師は、ザンビア大学付属教育病院 (University Teaching Hospital) での研修後、南部州ジンバ (ルサカから車で約6時間) のジンバミッション病院 (Zimba Mission Hospital) で無給ボランティアとして勤務しました。当病院は、周辺地域33万人を医療圏とする地域唯一の医療施設で、医師3人、准医師1人で運営されており、三好医師は、産婦人科・新生児の管理や病院手術の約7割を執刀するだけでなく、学生の指導等にも携わりました。約4年間のザンビアでの勤務を経て、現在は国境なき医師団の一員として、シエラレオネで活動されています。



T I C Oの活動



山本医師の活動